

— 1. 支部長挨拶 —

(社) 日本気象学会北海道支部 支部長 大島 隆
(札幌管区気象台長)

この度、岡野支部長の後任として、第26期後期の支部長を担当させていただくことになりました大島です。北海道支部の発展のため、精一杯努力したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



さて、昨年は北海道洞爺湖サミットが開催され、国内でも地球温暖化問題に対する市民の関心が高まっていますが、温暖化に関する正確な知識の普及は容易ではありません。

また、昨年の北海道は顕著な気象災害が比較的少ない1年でしたが、春から夏にかけては寒暖の差が激しい時期があり、また、年末・年始には発達した低気圧の影響で大荒れの天気となって交通機関に影響が出るなど、市民生活に少なからず打撃を与えるようなこともありました。本州においては、昨年7月から8月にかけて各地で局地的な大雨が度々発生し、河川の急な増水等により、尊い命が犠牲となってしまいました。

そして今年も、7月に梅雨前線が本州付近に停滞して、西日本では前線の活動が活発になり、山口県や九州北部地方を中心に大雨となりました。山口県防府市では土石流や山崩れにより多数の犠牲者が出るなど、広島県・山口県・福岡県・佐賀県・長崎県において死者30名の大きな災害となりました。さらに8月上旬には、台風第9号による大雨で兵庫県を中心に26名の死者・行方不明者が出るなど、再び大きな災害が発生しました。

大気科学は、地球環境問題や地域における防災対策など、私たちの社会生活と密接な関わりあいをもつ重要な学問分野です。こうした様々な気象現象の発生を契機として、その原因を解明し防災に役立てることへの社会的要求が高まっており、私たちには、研究者としてあるいは防災を担う者として、基礎研究の推進や、その成果を取り入れた防災施策の実施等、様々な立場から国民の皆様の安全・安心に寄与するとともに、そのために必要な知識の普及がより一層求められていると思います。

このような状況を踏まえて、本年7月末に札幌市青少年科学館と共催して第27回気候講座「新しい気象」を開催しましたが、これからも一般市民の方々を対象とした事業や、研究発表会などを開催する予定です。このような多くの事業や研究発表会などを通じて、市民の皆様に広く大気科学への興味を深めていただき、我々の研究成果の普及を推進することを目指したいと考えております。

日本気象学会北海道支部では、大気科学の発展につながる施策や教育現場における人材の発掘、研究環境の整備や情報の共有などのために、さらに幅広い活動を行えるよう努力して参りますので、今後とも会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。